

# 事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日

R7年2月14日

事業所名

児童発達支援アンデルセン

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		利用人数に合わせて個別療育の活動内容に合わせたスペースを確保させていただいている。	
	2	職員の配置数は適切である	9		利用人数、個々の特性を考え、その都度配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	2	コミュニケーションボードやスケジュール表を用いて分かりやすく視覚的に表しています。 来所時の流れや利用児が取り組んでいること等を掲示するなど、分かりやすく利用児が自ら取り組めるよう工夫を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		子ども達が興味を持ち過ごしやすいように工夫しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9		朝礼・昼礼時に話し合いを行い業務改善に繋げています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		改善内容や対応策を保護者様へフィードバックし、意見などが反映されている事をお伝えしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		保護者様の意見を反映し、改善内容を公開します。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2	現在は実施出来ていません。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		事業所内研修、事業所外研修とともに充実している。 施設内外での研修やリフレクション等を定期的に行い、スキルアップを目指している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		個別相談を実施し、状況ニーズの聞き取りをし把握できるようにしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9		アセスメントシートや支援シートなどを確認するなど、必要な支援内容の把握を職員同士で行っている。	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9		アセスメントやモニタリングを丁寧に行い、一人ひとりのお子さまの発達段階に合った具体的な支援内容を設定させていただいている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		支援計画を確認し療育内容に取り入れています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		一人ひとりの発達状況や特性を考慮し、無理なく取り組めるようスマーロステップで設定しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		職員ミーティングで新しい活動のアイデアを出し合い、マンネリ化を防ぎ最新の知見を取り入れながら、支援の幅を広げるようしています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9		個別活動を中心に、お子さまの発達状況な苦手・得意な事を把握した上で、定期的に集団活動を実施しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		朝礼又は昼礼時に打ち合わせをし、前回の活動時の様子を踏まえて取り組みの役割を確認し合っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1	各職員が気づいた点を実施記録に残し、深堀が必要なケースは後日じっくり話し合う時間を設けています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		支援の記録を確認し、内容等気になる事があれば記録者に聞くなど積極的に改善に繋げています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		半年ごとのモニタリングを設定し、計画の妥当性を確認しながら保護者様からご家庭での変化も反映させていただいている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		言語聴覚士又は児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9		必要に応じて療育の様子を見学頂いています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	2	重症心身障がいのあるお子さまのお預かりはしていないが、てんかん発作や音性痙攣を持っていてるお子さまにつきましては、保護者や保育園と連携をとり必要な対応が行えるように確認している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	1	重症心身障害児の預かりはしていないが、てんかん(欠神発作)があるお子様については上記と同じ。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		訪問支援事業は行っていないが、依頼があった場合は保育園を訪問し見学させていただき支援内容に繋げられるようにしている。	

	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	個別相談と並行して移行支援相談を行い、お子様の発達状況や保護者様の意向を踏まえた支援を提供しています。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9		研修等受け、職員のスキルアップに繋げています。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	4	現在、実施していません。	現状を踏まえ、今後の検討項目とする。
	29 （自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	1	管理者が参加しています。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		療育を担当した職員が保護者（送迎時）に利用児のその日の様子を伝えるなど、保護者との会話から課題等の確認を行う等、支援へのヒントへと繋げている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	9		モニタリングや個別相談の際、家庭での様子を伺い保護者さまへの助言等を行っている。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		契約時にご説明させていただいています。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		ご説明させていただき、同意をいただいている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		保護者様からの相談があれば、個別相談の時間を設け、家庭での様子を伺い保護者さまへの助言等を行っている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	6	現在は父母会の開催は行っておりません。	今後、保護者様のご要望があれば開催したいと考えています。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		相談等があった場合は、速やかに日程の確保を行い、職員間でも情報共有を行っています。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2	現在、会報は発行しておりません。インスタグラムにより発信しています。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	9		個人情報に関しては鍵付きの書庫で管理しています。写真等の取扱いについても事前にお聞きしています。	
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		口頭だけでなく、文字・イラスト・写真を活用しながら意思疎通が出来るよう配慮させてもらっています。	

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	5	現在、行っていません。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		各マニュアルを作成し、定期的に研修や訓練を実施しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		職員が訓練の機会を持てるよう、日や時間を考えた上で定期的に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9		発作時の対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方法を把握した上でお預かりさせていただいている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1	お弁当を持参してもらっており、食事の提供はしていません。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		ヒヤリハット作成、職員間で共有をしミーティングで振り返り、改善策を話し合っています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		職員一人一人が注意しながら利用児と関わり、定期的に研修も行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		現在、身体拘束を行っているお子様はいらっしゃいませんが、やむを得ない場合については個別支援計画に記載させていただき、保護者様に十分な説明を行い、同意を得るようにしています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。